

令和２年度
「運営に関する計画」
中間評価



令和２年１０月２２日
大阪市立真住中学校

学 校 経 営 計 画

< 学校園の組織目標等 >

次年度に向けた授業改善と評価及びカリキュラムの確立と、ブレない指導のもと安心して生徒が「強み」を発揮でき、地域・保護者にとって魅力あふれる学校をめざす

【 課題 】 昨年度の課題でPDCAを考えるべき結果

- ・昨年度実施の学力テストの大阪市との差が、全国学力・学習状況調査は平均正答率が最大－9％・無回答率が最大9.4％、3年チャレンジテストは平均正答率が、最大－9.7％・無回答率が5.9％、3年統一テストは正答率が最大－11.1％の結果で、どれも厳しい状況にあり、生徒の学習意欲の向上が喫緊の課題である。
- ・全国学力・学習状況調査の自己有用感の生徒質問紙の大阪府との差が、「将来の夢や目標を持っていますか」で－22.6％、「自分に良いところがあると思いますか」で－26.8％、「先生はあなたのよいところをほめてくれていると思いますか」で－9.7％、どれも早急に取り組むべき課題である。
- ・校内調査で、学校では「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている」で、1学期平均66％から2学期平均61％と5％減少しており、一年間を通して組織的な生活指導体制のもと教職員のブレない指導が求められる。
- ・不登校生徒が3年生7名・2年生5名の6％の割合であり、不登校生徒を生み出さない組織的なアプローチが必要である。

【 重点目標 】 予測困難な社会を生き抜くための必要なスキルの育成

- ①令和3年4月の新学習指導要領実施に向け「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と、3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）評価の確立に向けて計画的に取り組む。
- ②学校行事、生徒会活動、登校指導、人権教育や道德教育等カリキュラム全般を通じて、生徒の自己有用感の向上をめざして取組を企画し、日々の活動全般を通じて、課題発見力や課題解決力、試行錯誤を続ける力やチャレンジ意欲、人を動かし巻き込む力、情報を活用できる力、ゼロから価値を生み出す力を、生徒自ら習得できるようカリキュラムマネジメントの確立に取り組む。
- ③生徒が安心して成長できる安全な学習環境づくりのために、学校運営、学年運営、学校行事、生活指導、保護者対応、関係諸機関との連携等での課題解決に向けて、常に教職員がチームとして同じベクトルで協働できるブレない組織をつくる。
- ④不登校生徒へは教職員だけでなく学校元気アップ支援員や関係機関等と連携したアプローチにより、不登校生徒を生み出さない環境づくりに取り組む。
- ⑤学校安心ルールに基づいた指導を生徒・保護者に徹底し、生徒指導の機会を通じて、感情コントロール力やメタ認知力（他人の責任にせず自分に返せる力）を、生徒自ら習得ができるように、生徒理解のもと粘り強い指導に取り組む。
- ⑥地域やPTAが企画する行事に協働し、学校ホームページ等の広報活動を通じて、生徒たちだけでなく近隣の小学生からも魅力あふれる学校づくりをめざす。

大阪市立真住中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状

- ・組織目標として「主体的・対話的で深い学び」授業改善に取り組んだ教員は、同推協公開授業研究会を含め91%で、組織全体で取り組めた。
- ・本市施策の「主体的・対話的で深い学び」の推進プロジェクト事業では、3名の教員が授業研究や公開授業を実施し、助言者の関西学院大学佐藤教授からは、当該教員の研究の努力はもとより、それらを支えている教職員の全体の動きや学校全体で取り組みが評価された。加えて大阪市教育フォーラムでプロジェクトの内容を発表した。
- ・特色ある取組では Skype でタイ王国のピチャヤ・スサカ校の子どもたちと本校2年生生徒たちとのグローバルな交流実践、市販ロボットを使ったプログラミングの授業の開始、放課後学習でのタブレット端末を活用した自主学習アプリの活用、部活動のあり方を考える「ゆるスポーツ」の活動など、Society5.0社会を生きる生徒たちに少しでも夢や目標を持たせられる取り組みができた。
- ・令和2年度の新入生が4学級まで回復し、学校ホームページのアクセス件数の向上やデジタルサイネージ、真住祭り、小中教員プログラミング合同研修など、学校を地域保護者への見える化をねらったイメージアップの効果があらわれている。
- ・現在は、落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができているが、経済的な問題を抱えている家庭が全世帯数の約43%と非常に高く、保護者による生徒の監護が希薄な家庭や、子どもに対して過剰に反応する家庭も見られ、子どもの「貧困」への対策が求められる。そのために、「子どもサポートネット事業」等で住之江区役所やこども相談センター等と連携し、住之江区子育て支援子ども部会とともにより一層きめ細かな生徒の状況把握や実践が必要となる。
- ・学校安心ルールを順守し、日頃からブレない指導と組織での対応にこだわり、情報共有を密にし、生徒保護者には複数で対応する体制ができている。また、体罰・暴力行為等を許さない、虐待事案や生徒・保護者対応に関して毅然と対処できる生活指導体制を確立している。また、人権尊重の精神を基盤として、互いを認め合い「いじめ」のない学校づくりをめざしている。

課題

- ・昨年度実施の学力テストの大阪市との差が、全国学力・学習状況調査は平均正答率が最大-9%・無回答率が最大9.4%、3年チャレンジテストは平均正答率が、最大-9.7%・無回答率が5.9%、3年統一テストは正答率が最大-11.1%の結果で、どれも厳しい状況にあり、生徒の学習意欲の向上が喫緊の課題である。
- ・全国学力・学習状況調査の自己有用感の生徒質問紙の大阪府との差が、「将来の夢や目標を持っていますか」で-22.6%、「自分に良いところがあると思いますか」で-26.8%、「先生はあなたのよいところをほめてくれていると思いますか」で-9.7%、どれも早急に取り組むべき課題である。
- ・校内調査で、学校では「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている」で、1学期平均66%から2学期平均61%と5%減少しており、一年間を通して組織的な生活指導体制のもと教職員のブレない指導が求められる。
- ・不登校生徒が3年生7名・2年生5名の6%の割合であり、不登校生徒を生み出さない組織的なアプローチが必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和3年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていると思う」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を、8割以上にする。（昨年度は89%）
- 令和3年度の校内調査における「いじめはどんな理由があっても絶対にいけないことを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を、9割以上にする。（昨年度は89%）
- 令和3年度の校内調査における道徳に関する項目について、評価平均を3.6以上にする。（昨年度は4.0）
- 令和3年度の校内調査において不登校生徒の割合を5%以下にする。（昨年度は8%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の校内調査における「宿題などの課題をやっている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を、8割以上にする。（昨年度は91%）
- 令和3年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」の項目の肯定的回答率を全国平均レベルに向上させる。（昨年度は48%）
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を男女ともに全国平均値より向上させる。（昨年度長座体前屈男子向上女子減少・持久走女子向上）
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「自分の体力に自信がありますか」の項目の男女ともに肯定的回答率を全国平均レベルに向上させる。（昨年度全国平均レベルより男子0.8%減 女子12.6%減）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

令和2年度学校園の組織目標を、「次年度に向けた授業改善と評価及びカリキュラムの確立と、ブレない指導のもと安心して生徒が「強み」を発揮でき、地域・保護者にとって魅力あふれる学校をめざす」と定め、次の6項目を重点目標とする。

- ① 令和3年4月の新学習指導要領実施に向け「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と、3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）評価の確立に向けて計画的に取り組む。
- ② 学校行事、生徒会活動、登校指導、人権教育や道徳教育等カリキュラム全般を通じて、生徒の自己有用感の向上をめざして取組を企画し、日々の活動全般を通じて、課題発見力や課題解決力、試行錯誤を続ける力やチャレンジ意欲、人を動かし巻き込む力、情報を活用できる力、ゼロから価値を生み出す力を、生徒自ら習得できるようカリキュラムマネジメントの確立に取り組む。
- ③ 生徒が安心して成長できる安全な学習環境づくりのために、学校運営、学年運営、学校行事、生活指導、保護者対応、関係諸機関との連携等での課題解決に向けて、常に教職員がチームとして同じベクトルで協働できるブレない組織をつくる
- ④ 不登校生徒へは教職員だけでなく学校元気アップ支援員や関係機関等と連携したアプローチにより、不登校生徒を生み出さない環境づくりに取り組む。

- ⑤ 学校安心ルールに基づいた指導を生徒・保護者に徹底し、生徒指導の機会を通じて、感情コントロール力やメタ認知力（他人の責任にせず自分に返せる力）を、生徒自ら習得ができるように、生徒理解のもと粘り強い指導に取り組む。
- ⑥ 地域やPTAが企画する行事に協働し、学校ホームページ等の広報活動を通じて、生徒たちだけでなく近隣の小学生からも魅力あふれる学校づくりをめざす。

【子供が安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標(小・中学校)

- ・令和2年度の校内調査において、校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。(昨年度は100%)
- ・令和2年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。(昨年度は89%)
- ・令和2年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を0名にする。(昨年度は0名)
- ・令和2年度の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。(昨年度は8%)

学校園の年度目標

- ・令和2年度の校内調査における「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を65%以上にする(昨年度は62%)
- ・令和2年度の校内調査における「あいさつは出来ている」の項目について肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。(昨年度は83%)
- ・令和2年度の校内調査における「学校や社会の決まりを守る」の項目について肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。(昨年度は80%)
- ・令和2年度の校内調査における「体育大会や文化発表会などの学校行事を活発に取り組んでいる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。(昨年度は88%)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(昨年度1.2ポイント向上)
- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。(昨年度3ポイント減少)
- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。(昨年度0.8ポイント減少)
- ・令和2年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。(昨年度は87%)

学校園の年度目標

- ・令和２年度の校内調査における「宿題などの課題を出している」の項目について肯定的に答える生徒の割合を昨年度より８５％以上にする。（昨年度８０％）
- ・令和２年度の校内調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を行っている」の項目について肯定的に答える生徒の割合を昨年度より増加させる。（昨年度８７％）
- ・令和２年度の校内調査における「各教科の授業がよくわかる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を昨年度より５％以上向上させる。（昨年度８０％）
- ・令和２年度の校内調査における「毎晩、２３時までには寝ている」の項目について肯定的に答える生徒の割合を６０％以上にする。

３ 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立真住中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【子供が安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ①令和2年度の校内調査において、校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。（昨年度は100%） ②令和2年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。（昨年度は89%） ③令和2年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を0名にする。（昨年度は0名） ④令和2年度の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。（昨年度は8%） 学校園の年度目標 ①令和2年度の校内調査における「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を65%以上にする（昨年度は62%） ②令和2年度の校内調査における「あいさつは出来ている」の項目について肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。（昨年度は83%） ③令和2年度の校内調査における「学校や社会の決まりを守る」の項目について肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。（昨年度は80%） ④令和2年度の校内調査における「体育大会や文化発表会などの学校行事を活発に取り組んでいる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。（昨年度は88%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標		進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 防災・減災教育の推進	C	
指標 避難訓練を含む防災訓練を年間2回以上、区役所や消防署と連携して実施する。		
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校のきまりについて教職員で共通理解し、生徒が学校のきまりを守れるようにする。	B	
指標 オリエンテーション、風紀チェックを実施し生徒の規範意識を醸成させる。		
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。	B	
指標 いじめアンケートを年間3回実施し、生徒の実態把握を図るとともに、未解決事案0件を達成させる。		
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 生徒が自主的に考え行動する態度を養い、各内容項目について関心を深めさせる。	C	
指標 前時に学習した資料のあらすじや生徒の感想文について記載した道徳通信を、各学年・月1版発行する。		
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 共に学び・共に育ち・共に生きる教育に基づいた学級集団づくりを基盤にして、身の回りにある不合理や矛盾に気づく感性を養い、互いに理解し支え合いながら問題解決していく力を育てる。	B	
指標 令和2年度の校内調査における「様々な社会的弱者（外国にルーツのある人々、LGBT（性的少数者）、差別を受けている人々など）のことに学習し、理解することを通して、お互いが尊重できる社会を作る必要がある」の項目と「さまざまな障がいのある人への理解を深め、共に生活できる生活環境・社会が必要である」の二つの項目について肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。		
取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】 校内のインクルーシブ教育の充実を図るため、支援体制を確立する。	B	
指標 障がいのある生徒一人ひとりに「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その計画に基づいて効果的な指導や適切な支援を行う。また、特別支援サポーターを効果的に活用する。		
取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ホームページや保護者メール等を活用し情報を提供する。	B	
指標 昨年度の学校ホームページのアクセス数（52,150件）を上回る。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ① そう思う 29%、ややそう思う 50% 計 79% ② そう思う 52%、ややそう思う 31% 計 83% ③ そう思う 52%、ややそう思う 38% 計 90% ④ そう思う 49%、ややそう思う 36% 計 85% 現段階ではすべての項目で昨年度以上の結果となっているが、昨年度は中間反省から最終反省にかけて大きく下がったため、今後も継続していけるよう取り組んでいく。 【取組内容】について ① 地域の関連組織と連携できない 1 学期に校内では実施済み。2 学期に地震津波の避難訓練を実施予定。 ② 1 年生では 2 回、3 年生は 1 回行っている。2 年生は 2 学期中に実施予定。 ③ 1, 2 学期は実施済み。3 学期は実施予定。 ④ 1 学期は各学年・月 1 版を達成できたが、2 学期は毎月発行できていない。 ⑤ 学校評価アンケート（生徒、第 1 回 8 月実施）において「様々な社会的弱者（外国にルーツのある人々、LGBT（性的少数者）、差別を受けている人々など）のこゝと学習し、理解することを通して、お互いが尊重できる社会を作る必要がある」の項目と「さまざまな障がいのある人への理解を深め、共に生活できる生活環境・社会が必要である」の項目で肯定的な回答の割合は、それぞれ[1 年 76%、2 年 88%、3 年 76%]、[1 年 82%、2 年 76%、3 年 74%]であった。 ⑥ 障がいのある生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援をしてもらえるように計画を作成した。特別支援サポーターの方に週 4 日、入り込みの支援をしてもらっている。 ⑦ 現在（10/13 時点）でのアクセス数は 39224 件である。

次年度への改善点
【目標設定】について ○

大阪市立真住中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標(小・中学校) ①令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(昨年度1.2ポイント向上) ②令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。(昨年度3ポイント減少) ③令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。(昨年度0.8ポイント減少) ④令和2年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。(昨年度は87%) ⑤令和2年度の全国体力、運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である(長座体前屈、50m走)の平均の記録を、前年度より向上させる。 令和元年度の記録 ()は全国平均値とのT得点差 長座体前屈 男子；37.08 cm (6.0点)、女子；43.82 cm (2.5点) 50m走 男子；8.17 秒 (1.7点)、女子；9.09 秒 (3.5点) 学校園の年度目標 ①令和2年度の校内調査における「宿題などの課題を出している」の項目について肯定的に答える生徒の割合を85%以上にする。(昨年度80%) ②令和2年度の校内調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を行っている」の項目について肯定的に答える生徒の割合を昨年度より増加させる。(昨年度87%) ③令和2年度の校内調査における「授業がよくわかる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を昨年度より5%以上向上させる。(昨年度80%) ④令和2年度の校内調査における「毎晩、23時までには寝ている」の項目について肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 長期休業中や放課後の学習支援を実施し、生徒たちの基礎・基本の定着を図る。 指標 長期休業中や放課後の学習支援を実施する。 放課後の学習会の回数を昨年度より増やし、基礎基本の定着を図る。	B
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 図書館活用の充実を図り、読書の機会を増やす。 指標 令和2年度の校内調査における「読書に親しむ機会(図書館をふくむ)がある」の項目について肯定的に答える生徒の割合を昨年度より5%増加させる。(昨年度48%)	C
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 長期休業中や放課後の学習支援を実施する。 指標 年間30日以上実施する。	B
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業研究を実施する。 指標 「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた公開授業を各教員、年1回以上実施する。	未実施
取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICT機器等を活用することにより、生徒の学習意欲を向上させる。 指標 ICT機器等を活用した研究授業を1回以上実施する。	未実施
取組内容⑥【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 タブレット端末を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。 指標 タブレット端末の活用率を月平均7回以上に向上させる。(昨年度月平均5.5回)	C
取組内容⑦【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 英語の授業等でICTを活用して、英語によるコミュニケーション能力、異なる文化や考え方を理解し多面的に深く理解する力の育成に取り組む。 指標 令和3年2年生の英検4級レベル以上の割合を前年度よりも向上させる。(昨年度34.2%)	未実施
取組内容⑧【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 論理的思考力を高めるためにプログラミングの授業を展開する。 指標 技術・家庭科のプログラミング授業等で、ロボットを用いた計測・制御システムの授業内容を、3年生で年間10時間以上実施する。	C
取組内容⑨【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康管理を意識させる取組を実施する。 指標 実施後のアンケートに肯定的意見を80%以上にする	未実施

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ① 1年生88%、2年生91%、3年生89%と全学年で目標を上回っている。 ② グループ学習が困難な状況が続いたため、1年生79%、2年生82%、3年生63%と全学年で目標を下回っている。 ③ 1年生84%、2年生82%、3年生70%と全学年で目標を下回っている。教材研究や授業改善に取り組む必要がある。 ④ 1年生58%、2年生49%、3年生29%と全学年で目標を下回っている。 【取組内容】について ① 区役所のこども学習サポート事業、元気アップ学習会などを開いている。しかし、参加人数は少ないためテスト前に開催するなど実施時期を見直しが必要である。 ② 8月の学校アンケートでは肯定的に答える生徒の割合が41%であった。後期からは感染症対策をして、図書館を開館する予定である。 ③ 区役所のこども学習サポート事業、元気アップ学習会を合わせて、10月1日現在で23回実施している。 ④ 校内研修を10月2日に行い、今後学年ごとに公開授業を実施していく。 ⑤ 今後学年ごとに公開授業を実施していく。 ⑥ 感染症対策の観点から、生徒のタブレット端末の利用が困難な状況である。 ⑦ 令和3年1月に英検が実施される予定である。 ⑧ 現在、プログラミング教育に5回取り組んでいる。 ⑨ 取組をまだ行っていない。後期に実施予定。
次年度への改善点
【目標設定】について